

令和3年度
一関修紅高等学校一般入学試験問題

第1時限

(1月21日 8:50~9:40)

国語

(注 意)

- 1 「始めなさい。」の指示があるまで、問題を見てはいけません。
- 2 答えは、必ず解答用紙の「答」の欄に記入しなさい。問題用紙に書いても無効です。
- 3 答えは、記号・文字・言葉・文などで書くようになっていますから、問題をよく読んで、定められたとおりに書きなさい。
- 4 書き誤りをしたときは、きれいに消してから新しい答えを書きなさい。はっきりしない答えを書いた場合は、誤りとされます。
- 5 解答用紙の※印の欄（得点の欄）には記入してはいけません。
- 6 時間内に書き終わっても、その場に着席していなさい。
- 7 「やめなさい。」の指示があったら、直ちに書くのをやめ、筆記具を置きなさい。
- 8 問題用紙は、表紙を含めないで13ページで、問題は6題です。

キリコはよく歌をうたった。音楽の本にはないのをたくさん聴かせてくれた。学校のプレイヤーじゃ音楽は聴けないなんていって、あるときは、じぶんのステレオを教室に運んできたこともある。休み時間に、ぼくらが用務員のおじさんからリヤカーを借りて運んだんだ。キリコはい声①をしている。

「わめきなさい、わめきなさい」

って、キリコは自分でもうたいながらいう。

「音程なんてどうでもいいわ」

音楽嫌いだっただぼくも、いつの間にか、けっこうみんなといっしょにうたうようになった。音痴には音痴のいいところがある、なんていわれると、ちよいとぼくだってうたいたくなる。ぎゃあぎゃあわめいてもキリコはすました顔で、古ぼけたオルガンを弾き続けるんだ。ぼんこつオルガンも、キリコの手にかかると、なめらかな音を出すように思えるから妙なもんだ。

いまじゃ、ぼくら六年三組は、いたるところで、いろんな歌をうたいまくる。教室で、廊下で、校庭のかたすみで、ローン(芝生)で、道路で。キリコが作った歌もある。ぼくらが勝手にうたってキリコが楽譜に書きとめてくれたものもある。いつの間にか、ぼくらの口は歌をうたっている。面倒くさい約束ばかりあるのが歌だと思っていたけど、うたうことはほんとに楽しいことだった。

ぼくらは歌集も作ったんだ。クラスのみんなで手わけして、カッティングも印刷も、全部自分たちでやったのさ。みんなで、ひとつの仕事をしあげたのは初めてだ。ちっぽけなわら半紙(注2)の本だけど、できあがったときはうれしかったな。表紙だけは各自できれいな紙をはったり、絵をかいたりした。だけど、一さつ一さつに番号をふって、くじびきであたった本を自分のものにしたんだ。

「先生、わたしはとつてもきれいに作ったのに、こんなみつともない表紙のがあたって、損しちゃいました」

そのときデッコったら、ふくれっ面でいったものだ。ほんとに、誰が作ったのかあんまりぱつとしないんだな。ほかにも四、五人のやつらが文句をいいたした。

キリコはみんなを見まわしてほほえんだ。

「西山さん(デッコのこと)のように、損しちゃったと思う人は？」

十人ばかりが手をあげた。絵のうまいロクもあげた。

「どうして損しちゃったの？」

みんなは、デッコとおなじような答えをした。

「そう、困ったわね。どうしたらいいのかしら」

デッコやロクたち十人ぐらいのやつらも、なんだかもじもじし始めた。

「じゃあね、もいちどみんなで、どうして自分のかいたものを自分のものにしなかったのかを確かめてみましょうね」

それは、きのうのホームルームで話しあって決めたことだ。つまり、キリコも含めた六年三組の全員五十六名が、お互いに贈物をしあう、ということだったんだ。そのためにくじびきをやったのさ。

「そうね。ひとりひとりが、誰のものになるかわからないけど、心をこめて作ったのね。わたしも誰のものになるのかはわからないけど、心をこめて作ったわ。みんなはどうかしら」

ぼくらはすこしざわついた。誰も答えるやつはいなかった。

「誰にあたるんだかわからないし、どうせ誰が作ったものかわからないんだからなんて思って、らくがきをするように作った人はあったかしら？」

教室の中は静まりかえっていた。ぼくらはキリコが何をいおうとしているかを、一生懸命考えた。「よろしい」

とキリコはいった。

「誰かはわからない大勢の人たち、その人たちの中には、あなたがたひとりひとりがいっているのよ。その大勢の人たちに、あなたがたは、名まえなしで、贈物をしました。名まえのない、あなたがたひとりひとりの贈物は、名まえもわからない、あなたがたひとりひとりの手もとにとどきました。いい、いちばん大切な贈物は、このような贈物のことなのよ。どうかしら？ わかってもらえたかしら？」

ぼくらは、再びざわめいた。ミツコがいった。

「むずかしいけど、すこしわかります」

「先生っ！」

と、ロクが勢いよく手をあげた。

「ぼくはてんでわかっちゃうよ。ほめてもらったり、ほうびをもらったりするためにだけやるようなことは愚劣だっていうんでしょ」

「そう、そうなのよ」

と、キリコが勢いこんでいったので、ぼくらは思わず笑った。

「先生がいつもしつこくいつてることだもん」

とロクがいった。キリコはちよつと赤くなった。ぼくらはまた笑った。キリコはピシャピシャと自分の額をたたいて小さな舌を出した。

「先生」

「でも、いくら心をこめたものだからって、これはひどすぎます」

デッコは立ちあがって、みんなに見えるように歌集をかかげた。てるてるぼうずが三つ、空中にぶらさがってる絵だった。ぼくらは考えることもなしに、げたげた笑って、やじをとばした。

「わたしは、そうは思わないわ」

キリコがよくとおる声で、

A

いった。

「じょうずじゃないわ。でも、ほら、一生懸命にかいてあるわ。そして、そのことだけが、いつでも、どんなときでも、いちばん大切で、りっぱなことなのよ」

ぼくらは、キリコの真剣な調子に圧倒されて、もいちどてるてるぼうずを見なおした。教室はまた静まりかえった。まるで空気がセロハンみたいにはりつめてる。

と、——ガタンといすが鳴って、ひょこんと立ちあがったやつがいる。金井だった。

「ぼく、ぼく、一生懸命——！」

金井はそれだけを、声を震わせていった。

いつでもなんだかしよぼくれてて、てんでめだたないやつなんだ。

「よろしい」

と、キリコは金井にうなずいてみせていった。

「お座りなさい」

「いやです！」

と、金井は声をふりしぼって叫んだ。

「一生懸命かいたって、こんなに笑われるんだ。先生、一生懸命やることがいちばん大切だって、先生はいつもいうけど、そんなものなんにもなりやしないよ！」

キリコは、金井を静かに見つめた。金井はぶるぶる肩を震わせていた。教室の空気は、いまにも震えだしそうに、

「お座りなさい」
B はりつめ、いやな沈黙がのさばっていた。

キリコは金井の肩に手をおいて、静かな声でいった。

「もっとわたしたちは、プライドを持たなきゃだめ。みんなが笑ったって、みんながほめてくれなくたって、自分の努力を自分で笑ってはいけないわ。自分の努力は、自分だけが知っているものよ。誰にもわかってもらわなくてもいいものなんだわ。でも、自分でだけは知っていなくちゃいけないのよ。それがかけがえのないほど、大切なものであるということをね。みんなの評判だとか、テストの点数だとか、通信簿だけで、自分の努力をはかったりしちゃだめ。自分のやったことは、人に知られなくなると、自分で大切にしていかなくちやいけないのよ。大きくなったって、そのことを実行できる人こそ、勇気ある人なんだわ。その人こそ、わたしはりっぱな人間であると考えるの」

席についた金井の肩に、キリコはゆっくり手をのせた。

「金井君、そしてみんなも、勇気を持ってちょうだい」

ぼくらはまっすぐに顔をあげて、男のように胸をはって立つキリコを見つめていた。

「先生」

と、デッコがおずおずいった。

「わたしは、悪いことをしたのでしょうか」

キリコは、
C はじけたように、笑顔を見せた。

「いいえ、
X
」

「では、誰がいけなかったのですか」

キリコはデッコを見つめて笑った。

「悪い人を、クラスの中に見つけようとしてはいけないわ。いいわね。わたしたち五十六人は、みんな友だちなのよ」

廊下でベルが激しく鳴った。六時間目が終わったのだ。

(後藤竜二「天使は大地でいっぱいだ」による)

(注1) キリコ：東京の音楽大学を卒業した六年三組の担任。

(注2) わら半紙：わらの繊維に少量のミツマタやコウゾの繊維を混ぜてすいた半紙。ざら紙。

(1) 本文中の空欄 **A**、**B**、**C** には、それぞれどのような言葉が入りますか。その組み合わせとして最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

ア	A	きっぱり	B	びんと	C	ぱっと
イ	A	ぴんと	B	きっぱり	C	ぱっと
ウ	A	ぱっと	B	ぴんと	C	きっぱり
エ	A	きっぱり	B	ぱっと	C	ぴんと

(2) 傍線部① わめきなさい、わめきなさい とキリコが言うのはなぜですか。本文中の言葉を用いて二十五字以上三十五字以内で書きなさい。(5点)

(3) 傍線部② こんなみつともない表紙 とありますが、それはどのような絵の表紙だったのですか。本文中から二十二字の部分をもそのまま抜き出して書きなさい。(3点)

(4) 本文中の **X** には、どのような言葉が入りますか。次のア～エから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

ア	あなたは、いつもいけないことをしているわ。
イ	あなたは、いつも率直で、素直だわ。
ウ	あなたは、いつもみんなを大切にしてくれるわ。
エ	あなたは、いつも正直で、信頼できるわ。

(5) 本文中で「六年三組」はどのようなクラスとして描かれていますか。次のア～エから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

ア	担任のキリコの理路整然とした言葉にとまどったり反感を抱いたりしながらも、自分たちで解決できる力を育てようとしているクラス。
イ	担任のキリコの若さに男の子たちは反発していたが、女の子たちのリーダーシップで少しずつまとまり始めたクラス。
ウ	担任のキリコの言葉を理解しようと努め、仲間の思いを真剣に受け止め一人ひとりを大切にしようとするクラス。
エ	担任のキリコの率直で真剣な言葉だけを頼りとしており、まだまだ自分たちでクラスの問題に立ち向かうことができないクラス。

じぶんの身体というものは、だれもがじぶんのもっとも近くにあるものだと思っています。たとえば包丁で切った傷の痛みはわたしだけが感じるもので、他人は **X** でわかって、わたしの代わりに痛んでくれるわけではありません。その意味で、わたしはわたしの身体であると言いうるほどに、わたしはまちがいはなくわたしの身体に近くにあります。

A、よく考えてみると、わたしはじぶんの身体についても持っている情報は、ふつう想像しているよりもはるかに貧弱なものです。たとえば身体の全表面のうちでじぶんで見えるところというのは、身体の前面のごく一部に限られています。だれもじぶんの背中や後頭部をじかに見たことはありません。それどころか、他のひとたちがこのわたしを「わたし」として認知してくれるその顔は、じぶんでは終生^(注)、じかに見る事ができないものです。ところがこの顔にこそ、じぶんではコントロール不可能な感情や気分が露出してしまします。なんとも無防備なことなのです。

それだけではありません。身体の内部となると、これはレントゲンや超音波撮影機や体内カメラといった高度な技術を使わないと、ぜったいに見ることはできません。身体の内部で起こっている細かいことは、じぶんではぜんぜんわからぬのです。じぶんのなかからふつつつと湧き上がってくる欲望や感情、これもわたしはなかなかうまくコントロールできません。痛みや病みという現象も、わたしたちには不意を襲うようなたちでやってきます。それにたいして、わたしたちはただいつも襲われるがままでいるしかありません。身体とはわたしたちにとってまずは不安の滲みでてくるところであるようです。わたしたちの身体は、知覚情報も乏しいし、思うがままに統制もできないという意味では、「わたし」から想像以上に遠く、隔たったもののようです。

他人の身体ならわたしたちはそれを一つの物体として、他の物体のように見たり触れたりできるのですが、ほかならぬこのわたしの身体は、じぶんではいわばどこかたよりないイメージとして所有することしかできないのです。わたしたちはじぶん自身の身体を、いわば目隠ししたまま経験するしかありません。これは考えてみれば、物騒な事実です。フリードリヒ・ニーチェという哲学者は、その著書のなかで、「各人にとっては自己自身ももっとも遠い者である」という、ドイツの古い諺^(ことわざ)を紹介していますが、身体についてもまったく同じことが言えそうです。

じぶんの身体はつねにイメージとして思い描くしかない。身体はこのように情報量の少ない、ぼんやりとした「像」であり、想像の産物ではないので、かんたんに揺らいでしまいます。とてももろいものなのです。 **B** このようなもろい身体イメージを補強するために、わたしたちは日常生活のなかでいろいろな技法を編みだしてきたのです。

セイモア・H・フィッツシャーというアメリカの心理学者が『からだの意識』という本のなかで興味深い指摘をしています。かれによると、 **C** 風呂に入ったたり、シャワーを浴びたりするのが心地いいのは、湯や冷水のような温度差のある液体に身を浸すことによって、皮膚感覚がはげしく刺激され、活性化されるからです。ふだん視覚的には近づきえないじぶんの背中の輪郭が、皮膚感覚の活性化によってにわかにくっきりしてくるといいます。つまり、このことによって「わたし」の輪郭が感覚的に補強されるので、じぶんとの境界がきわだってきて、じぶんの存在のかたちがたしかなものとなり、気持ち安らいでくるということです。

(驚田清一「ひとはなぜ服を着るのか」による)

(注) 終生…生きていく間。

(1) 本文中の空欄 **X** にはどのような言葉が入りますか。次のア～エから最も適当なものを選び、その記号を書きなさい。(2点)

ア 身体 イ 感情 ウ 頭 エ 腹

(2) 本文中の空欄 **A** ～ **C** には、それぞれどのような言葉が入りますか。その組み合わせとして最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

ア A しかも B つまり C そもそも
イ A ところが B そして C たとえば
ウ A だから B けれども C 実は
エ A あるいは B すると C とりわけ

(3) 傍線部① わたしがじぶんの身体についてもっている情報は、ふつう想像しているよりもはるかに貧弱なものです。とありますが、この部分の具体例として**適当でないもの**を、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

ア 包丁で切った傷の痛みはわたしだけが感じるもので、他人にはわからない。
イ 身体の全表面のうちでじぶんで見えるところは、ごく一部に限られている。
ウ 身体の内部は、レントゲンなどの高度な技術を使わないと見ることができない。
エ 痛みや病いという現象は、わたしたちの不意を襲うようなかたちでやってくる。

(4) 傍線部② なんとも無防備なことです。とありますが、次の文は、その理由を説明したものです。空欄 **D**、**E** にあてはまる言葉を、本文中から、それぞれ五字の部分をそのまま抜き出して書きなさい。(3点×2)

人間は、自分の背中や後頭部などがそうであるように、顔を **D** ことができないものであるにもかかわらず、その顔には自分の思い通りにならない **E** があらわになっってしまうから。

(5) 傍線部③ 身体についてもまったく同じことが言えそうです。とありますが、どのような点が「同じこと」と言えますか。次のア～エから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

ア 各人にとって知覚情報も多しく思うがままにならない身体というものは、いずれ自己自身に離反して隔てられ、断絶してしまうものである点。
イ じぶんの身体は近くにあるものだと思っただれもが思っているのに、実はイメージとして所有することしかできない遠く隔たったものである点。
ウ じぶんの身体にとっては、近くにいる他人よりも、ふつつつ湧き上がってくる自己自身の精神のほうが遠く隔てられているものである点。
エ 各人にとっては、あまりに無防備で統制もできない自己自身の身体こそが頼りなく不安であり、遠いようであり、実はもっとも近いものである点。

(6) 傍線部④ じぶんの存在のかたがたしかなものとなり とありますが、次の文は、このことを説明したものです。空欄 P R には、それぞれのような言葉が入りますか。その組み合わせとして最も適当なものを、後にあげる選択肢ア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

不確かな P イメージを補強する Q を用いることによって、 R がはっきりしてきて P がたしかに自分のものだと思われされること。

【選択肢】

ア	…	P	存在	Q	想像	R	現象
イ	…	P	自己	Q	感覚	R	意識
ウ	…	P	身体	Q	技法	R	輪郭
エ	…	P	個体	Q	情報	R	外形

次の詩を読んで、あとの(1)～(5)の問いに答えなさい。

(17点)

しっぽを捨てる

木村信子

しっぽを自慢するなんておかしいだろう

しっぽは恥部なのだ

しっぽは畜生の証なのだ

そのしっぽを毎朝夕ていねいに梳きながら自分でうっとりしているなど気狂い沙汰だ

けど本当はわたしのしっぽなんて有りふれたうすぎたないつまらないものなのだ

だれも特別わたしのしっぽに関心を持つ者なんていないし

踏んづけて通ってもその事にすら気づかない者の方が多いのだ

なのにわたしはしっぽがある事が生きが이었다

(おまえは縄とびも出来ないんだねえ)

(うん) でもわたしにはしっぽがあるんだ

(おまえは歌も唄えないのかえ)

(うん) でもわたしにはしっぽがあるんだ

(おまえの画いた絵はただまっ暗な穴みたいだねえ)

(うん) でもわたしにはしっぽがあるんだ

① そのしっぽを捨てに行くところなんだ

おんおん泣きながら引きずって

だれも知らない山奥のやわらかい草の生えている上にそっと置いて来よう

帰ったら毎日しっぽの事を思っで暮らそう

すべすべした手ざわりを

② だきしめると孤独をあたためてくれたことを

しっぽが生えていることをわたしよりもしっぽ自身の方が恥かかっていたことを

しっぽが生えていたあたりをまさぐりながら

しっぽがなくなつたしっぽがなくなつたと念仏のように唱えながら

しっぽが残していった諸諸を抱きしめて

また新しいしっぽが生えるかもしれないなんておかしな事思っで

いつの間にかそれを本気で信じて

子供が新しい歯が生えるのを待っているように待っていていよう

〔木村信子詩集 おんな文字〕による

(注) 畜生：鳥、獣、虫、魚などの総称。

(1) 傍線部① そのしっぽ とありますが、「しっぽ」は「わたし」にどのようなことを与えてくれましたか。この部分より前の詩の中の言葉を用いて十字以内で書きなさい。(3点)

(2) 傍線部② しっぽが生えていることをわたしよりもしっぽ自身の方が恥かしがっていたことを後に省略されている言葉を、詩の中から七字以内で、そのまま抜き出して書きなさい。 (3点)

(3) 傍線部③ 念仏のように唱えながら とありますが、この表現の説明として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア 一心に神仏に祈り続けながら。
- イ ひたすら極楽往生を願いながら。
- ウ 厳しく自分を律しようとしながら。
- エ 同じ言葉を何度も繰り返しながら。

(4) この詩の表現上の特徴として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

- ア 散文的な表現の中にかっこ書きを挿入することで、「しっぽ」を非難する人々への抗議を表現している。
- イ 擬音語や擬態語を多用することで、「しっぽ」の姿が読み手に現実感を持って伝わるように表現している。
- ウ 句読点をすべて省略することで、次々と切れ目なく変化していく「わたし」の心情を巧みに表現している。
- エ 句点を一切用いないことで、ためらいと決断のはざまに置かれた「わたし」の困惑した感情を表現している。

(5) この詩の内容として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

- ア 現在の自我や過去の自分にこだわっているのは自分だけであり、他者から見れば極めて愚かなことだということ。
- イ 人間は常に自分というものをきっぱり忘れるという体験をすることで成長していくものだという事。
- ウ 孤独やさびしさから抜け出すためには、自分を制約するこだわりや自我を失ってはならないのだということ。
- エ 人間というものは、常に自意識や過去の自分を捨てることで、新しい自分を作り出すのだということ。

次の文章を読んで、あとの(1)～(4)の問いに答えなさい。

(13点)

(注1) 顔淵、仲尼(注2)に問ひて曰く、「吾嘗て觴深の淵を濟る。津人の舟を操ること神のごとし。吾、(注3)渡りました。渡し場の船頭

焉(注4)に問ひて曰はく、『舟を操ること学ばべきか』と。曰はく『可なり。善く遊ぶ者は数々すれば速やかにああである』

能くす。乃ち夫の没人のごときは、則ち未だ嘗て舟を見ずして、便ち之を操るなり』と。吾、可(注4)能だ。しかし。今まで一度も舟を見たことがなくても、すぐに

焉(注4)に問へども吾に告げず。敢て問ふ、何の謂ぞや』と。仲尼曰はく、「善く遊ぶ者の数々して能く強いてお尋ねしますが、どういう意味ですか

するは、水を忘るればなり。乃ち夫の没人の未だ嘗て舟を見ずして、便ち之を操るがごときは、(注4)水に慣れて意識しなくなるからだ。しかし

彼、淵を視ること陵のごとく、舟の覆るを視ること、猶ほ其の車の卻くがごとければなり。その人は深い淵も陸上の岡のように思い、たとえ舟がひっくり返っても、ちやうど車が後退するのを見るのと同じだからだ

覆卻(注5)萬方前に陳なれども、而も其の舍に入るを得ず。悪くに往くとしてか暇あらざらん。瓦を目前に起こつても、彼の心中を乱すに至らない。いかなる場合に於つても余裕があるのだ。瓦を

以て注すれば巧に、鉤を以て注すれば憚り、黄金を以て注すれば殆し。其の巧は一なり。而して賭けて射的する者は巧妙に当てる。おそれ憚り。困乱する。射的の巧みさは同一だが物を

矜しむ所有れば、則ち外を重んずればなり。凡そ外重き者は、内拙し』と。その精神の働きは鈍るのだ。惜しむ気持ちがあると、賭けの景品である外物に心が傾くからだ。

(「莊子」による)

(注1) 顔淵…仲尼(孔子)の弟子。

(注2) 仲尼…孔子。春秋時代の中国の思想家、哲学者。

(注3) 觴深…淵の名前。通行に困難で危険な場所と言われた。

(注4) 没人…鴨のように水底にもぐることでできる人。潜水の達人。

(注5) 覆卻萬方…舟が覆ろうが後退しようが、ありとあらゆる危険。

(注6) 鉤…高価な帯留め。

(1) 傍線部① 問ひて曰く の読み方を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。(3点)

(2) 二重傍線部 乃ち夫の没人のごときは とありますが、漢文では「若乃夫没人」となります。これに**返り点**を付けなさい。ただし「若」は「ごとき」と読みます。(3点)

若^{キハ} 乃^チ 夫^ノ 没^{人ノ}

(3) 傍線部② 夫の没人の未だ嘗つて舟を見ずして、便ち之を操る とありますが、潜水の達人が舟を見たことがなくても、すぐに舟を漕ぐことができる理由を、仲尼(孔子)はどのように述べていますか。次のア～エから**最も適当なもの**を一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

ア 全く水を恐れておらず、どのような場合にもゆとりがあるから。

イ 水であることを忘れるほど、水を意識することがなくなるから。

ウ 危難にも心は落ち着き、舟を漕ぐ確かな技術と意欲があるから。

エ 水中は陸上だと思えるほど、魔術を駆使することができるから。

(4) 本文の内容として**最も適当なもの**を、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

ア 心が落ち着いていれば、すべてのものをありのままに捉えることができるということ。

イ 物欲や名誉欲に心がとらわれると、精神が統一されずに上手くはいかないということ。

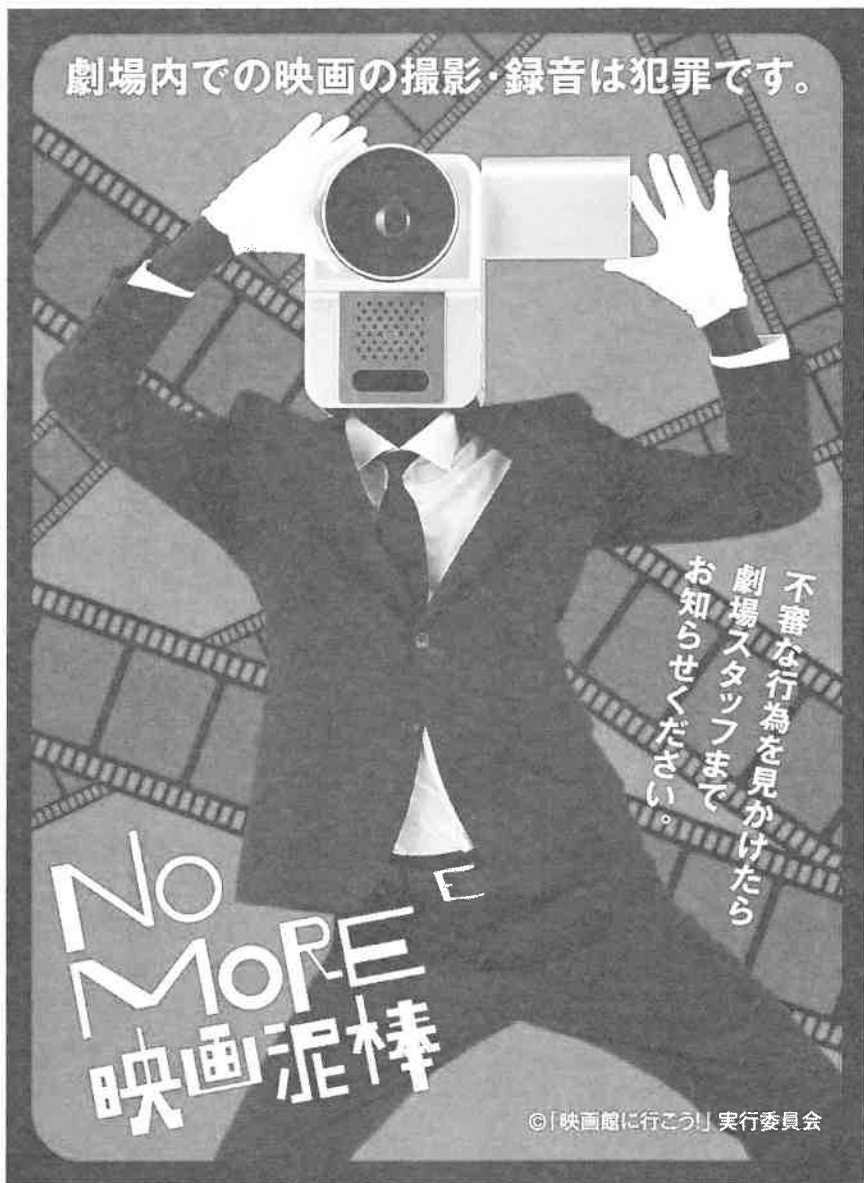
ウ 苦境に陥っても、困難に直面しても、何事もないかのように平然と構えるということ。

エ 自らの能力や人間性を磨くためには、限らない努力をしなければならぬということ。

5

次の【資料】は、映画館などの劇場で映画鑑賞客に向けたキャンペーンとして使用されているポスターです。あとの【会話文】を読み、(1)、(2)の問いに答えなさい。(10点)

【資料】



【会話文】

先生 右のポスターを見て気が付いたことを挙げてみようか。

生徒A 中央にビデオカメラの顔をした男性が何かをしているように見えます。

生徒B 男性の横には「不審な行為を見かけたら劇場スタッフまでお知らせください。」と書いてあるよ。確かに怪しい行動に見えるね。

生徒C ポスターの上部分には、「劇場内での映画の撮影・録音は犯罪です。」って書いてあるわ。

生徒A この男の人は映画館で上映している映画を自分のカメラに録画しているのかな。

生徒C 違法な行為になるんじゃないの。

先生 そうだね。作品として公開されている映画を無断でコピーすることは製作者の権利を侵害する重大な犯罪になるんだよ。そのような犯罪が起きないように多くの人たちに注意を喚起するために作られたポスターなんだよ。

(1) 【会話文】で述べられている、侵害されるおそれのある権利とは何ですか。次のア～エから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(2点)

- ア 著作権 イ 環境権 ウ 生存権 エ 所有権

(2) この【資料】は、違法行為を知らせる啓発広告となっています。どのような点が優れているか、①図案の工夫と、②メッセージのわかりやすさについて、それぞれ二十字以上三十字以内で書きなさい。(8点)

6

次の(1)～(10)の傍線部について、漢字の場合は正しい読みをひらがなで書き、カタカナの場合はそれぞれにあたる漢字をかい書で正しく書きなさい。

(2点×10)

- (1) 最近**は専ら**日曜日のNHK大河ドラマにはまっている。
- (2) 世界の核兵器による軍事力強化の流れに強い**懸念**を示す。
- (3) **三大疾病**とは、がん、心疾患、脳卒中のことを意味する。
- (4) 消防団員の避難誘導により**間一髪**のところで助かった。
- (5) お金もうけの話になると参加者は**興味津々**で話を聞いた。
- (6) 今度、新築した自宅の庭で初めて**ペットの犬を力う**。
- (7) 肉体的な負担を**ケイゲン**するAI（人工知能）ロボットを開発する。
- (8) 新型コロナウイルスには、重度の**ハイエン**を引き起こす危険性がある。
- (9) 若者の要求が**サイヨウ**されるように投票率を上げる必要がある。
- (10) あきらめずに**シコウサクゴ**を重ねていくことが大切である。

